

インフラツーリズム魅力倍増プロジェクト モデル地区進捗報告について



- 1. 前回までの議論の概要**
- 2. 各モデル地区の進捗報告**
- 3. 今年度の成果とりまとめの方向性**

1. 前回までの議論の概要

1. 前回までの議論の概要

インフラツーリズム有識者懇談会

第1回
(H30.11.9)

- ・インフラツーリズムのこれまでの取組と課題
- ・インフラツーリズムの今後の方向性

第2回
(H30.12.25)

インフラツーリズムの拡大にむけて

第3回
(H31.2.26)

拡大にむけたまとめと来年度の取組みについて

第4回
(R1.6~7)
(持ち回り開催)

- ・モデル地区(5地区)の選定
- ・プロジェクトロゴマークの決定

※直轄管理施設及び会社管理施設を対象に、各施設管理者からモデル候補地区として20地区の推薦

※インフラツーリズム拡大に向けた取組みの効果が特に期待できる地区5地区をモデル地区として選定

※モデル地区の選定について7月12日記者発表

1. 前回までの議論の概要

〈モデル地区での取組内容〉

1. 資源の調査

- 周辺観光資源の調査
- インフラの調査(視点場、開放可能性、現状の満足度調査等)

2. 地域資源を活用したツアーの企画

- ストーリーのあるツアーの組み立て
- シナリオの作成
- 説明要員の育成

3. ファムツアー※(下見招待旅行)の実施

- 旅行会社、訪日外国人旅行客、留学生等を対象にニーズを把握し、ツアーを実施
- アンケートやヒアリング等により意見聴収

※Familiarization Tour: 旅行事業者やメディアなどに現地を視察してもらうツアー

4. 持続的な体制づくり

- 持続的にツアーを実施するための体制を検討
- より満足度を向上させるために必要な施設整備等を整理

モデル地区の選定について(7月12日記者発表)

国土交通省

Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism

Press Release

プロジェクト
ロゴマーク決定!



令和元年 7月 12日
総合政策局公共事業企画調整課

インフラツーリズム魅力倍増プロジェクト始動! ～社会実験モデル地区を選定～

インフラツーリズム魅力倍増プロジェクトにて社会実験を実施するモデル地区5箇所を選定しました。

また、この夏開催される、今だけ、ココだけの旬のインフラツアー全437件をインフラツーリズムポータルサイトに掲載しました。

○ 国土交通省が平成30年11月に設置した「インフラツーリズム有識者懇談会」では、2020年に向け「インフラツーリズム魅力倍増プロジェクト」を立ち上げ、モデル地区での社会実験、国内外への広報、インバウンド対応等に取り組むこととしております。

今般、有識者懇談会の委員にご議論いただき、プロジェクトにおいて社会実験を実施するモデル地区5箇所を選定しました。(別紙1)

モデル地区の選定とプロジェクトの始動に伴い、プロジェクトにて活用するロゴマークを決定しましたのでお知らせします。



新桂沢ダム 嵩上工事現場の様子(北海道)

○ また、この夏、全国で開催されるインフラツアーをインフラツーリズムポータルサイトに掲載しました。季節ごとに表情を変えるインフラ施設。夏の魅力大放出のインフラツアーにだけかけてみてください。

インフラツーリズムポータルサイト
<http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/region/infratourism/index.html>



※国土交通省では、地域活性化のため、インフラをよりご理解いただくためにインフラツーリズムを推進しています。

<問い合わせ先>

国土交通省 総合政策局公共事業企画調整課 菅、坂ノ上

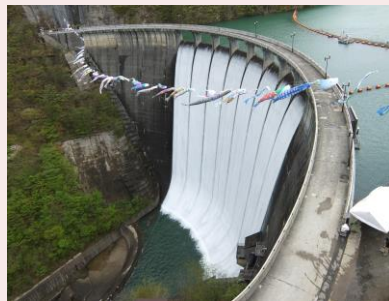
代表：03-5253-8111 (24563, 24524) 直通：03-5253-8912 FAX：03-5253-1551

1. 前回までの議論の概要

モデル地区選定箇所(5地区)

① なるこ 鳴子ダム【宮城県大崎市】

- ・日本人の技術者により造られた日本初のアーチダムで選奨土木遺産
- ・周辺には温泉、名勝、史跡等があり、農業遺産である大崎耕土も含めた流域連携モデル



② やんば ハッ場ダム

- 【群馬県吾妻郡長野原町】
- ・建設中ダムでの多彩な見学ツアー(やんばツアーズ)を開催
- ・今年度完成予定を踏まえ、建設段階から管理段階への移行モデル



③ あまがせ 天ヶ瀬ダム【京都府宇治市】

- ・宇治市街地に近接
- ・立地を活かし、DMOと連携したツアー造成、淀川水系支流の高山ダムとの組み合わせなど広域連携モデル



④ くるしま 来島海峡大橋 他

- 【愛媛県今治市】
- ・瀬戸内しまなみ海道上の世界初の三連吊り橋であり、塔頂体験ツアーを開催
- ・先行実施している明石海峡大橋のノウハウも取り入れ、長大橋のモデル



⑤ つるだ 鶴田ダム

- 【鹿児島県薩摩郡さつま町】
- ・九州最大の重力式コンクリートダムで水位低下時には明治期の発電所遺構が出現
- ・霧島連山や桜島等の広域周遊モデル



2. 各モデル地区の進捗報告

2. 各モデル地区の進捗報告

<今年度事業フロー>

現地協議会準備

- ・既存の活用しうる組織をベースに連携が必要な団体を追加

第1回現地協議会

- ・インフラと周辺地域との連携に向け、現状把握と課題抽出
- ・ツアーを計画し、継続的に実施していくための事業実施方針(案)の検討
- ・ファムツアーのコース、検証項目の検討

事業実施方針(案)、
ファムツアーコースの作成

ファムツアーの実施

- ・インバウンド旅行関係者を対象にツアーを実施
- ・アンケートと意見交換会を実施し、インフラ見学及び地域の観光資源に関する評価、課題、改善点等の意見を集約

第2回現地協議会

事業実施方針更新
ツアー提案シート作成
運営体制の検討

- ・ファムツアーで指摘された評価、課題、改善点を踏まえた事業実施方針(案)の見直し
- ・事業実施方針に基づき、具体的な商品造成を目指したツアー提案シートの検討
- ・地域の実情を踏まえた運営体制の検討

今年度成果のとりまとめ

2. 各モデル地区の進捗報告

<協議会、ファムツアー等の実施状況、予定>

	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
鳴子ダム		11/8 第1回協議会	11/25~26 ファムツアー			第2回協議会 (予定)	
天ヶ瀬ダム		11/8 第1回協議会	11/28~29 ファムツアー			第2回協議会 (予定)	
来島海峡大橋		11/1 第1回協議会	11/21~22 ファムツアー		1/14 第2回協議会		
鶴田ダム	9/13 第1回協議会	11/9~10 ファムツアー				2/6~7 第2回協議会(予定)	
ハツ場ダム		11/12~12/11 事業者ヒアリング		11/28 アンケート調査		1/30~31 ファムツアー(予定)	

2. 各モデル地区の進捗報告 - 鳴子ダム① -

<インフラ周辺の観光資源>

▼鬼首地熱発電所
A photograph of a geothermal power plant facility with several buildings and a tall chimney emitting a plume of white steam.

▼鳴子ダム
An aerial view of the Nami Dam, a large concrete structure with a reservoir behind it, surrounded by lush green forest.

▼あ・ら・伊達な道の駅
A photograph of a modern station building with a covered parking area and several cars parked.

▼内川
A photograph of a traditional stone bridge crossing a river in a rural setting.

▼鳴子温泉郷
A photograph of a town built on a hillside, with buildings and a road visible.

▼尿前の関
A photograph of a traditional wooden gate (kai) with a thatched roof, marking an entrance to a shrine.

▼森民酒造
A photograph of a traditional Japanese building with a thatched roof and a large, rounded stone lantern in the foreground.

▼鳴子のこけし
A photograph of a traditional Japanese building with a large, colorful decorative pillar (kokeishi) in front.

▼鳴子峡
A photograph of a stone arch bridge spanning a river, surrounded by autumn foliage.

▼旧有備館
A photograph of a traditional Japanese building with a thatched roof, likely a historical site.

▼大崎耕土
An aerial photograph of a vast, flat agricultural landscape with green fields and small buildings.

▼宮城オルレ 大崎・鳴子温泉コース
A photograph of a group of people hiking on a stone path through a lush, green forest.

▼湯沼
A photograph of a large, turquoise-colored lake (Onuma Lake) surrounded by mountains.

▼竹工芸館
A photograph of a workshop or museum displaying various bamboo crafts, including baskets and bowls.

▼松島
A photograph of a scenic view of a bay with a traditional building on a small island and boats in the water.

2. 各モデル地区の進捗報告 -鳴子ダム②-

◆ 現地協議会

< 構成員 >

既存組織：鳴子ダム水源地域ビジョン幹事会

大崎市、宮城県、(一社)みやぎ大崎観光公社、NPO法人鬼首山学校協議会、大崎市立鬼首小学校、鬼首地域づくり委員会、鳴子まちづくり協議会、鳴子温泉郷観光協会、(株)オニコウベ、大崎地域水管理協議会、東北電力(株)、鳴子ダム管理所

その他連携団体：NARU-GO！再生プロジェクト

< 第1回協議会 >

- 日 時：令和元年11月8日 15:00～16:30
- 場 所：鳴子ダム管理所
- 議 事：(1)インフラツーリズム推進への取り組み
(2)本年度の事業概要について
 - ①事業実施方針(案)について
 - ②ファムツアー実施について(3)今後のスケジュールについて



2. 各モデル地区の進捗報告 -鳴子ダム③-

◆ 事業実施方針(案)

プロジェクト タイトル	インフラツーリズムが東北の復興を応援 【鳴子ダム魅力倍増・通年化プロジェクト】
プロジェクト 概要	流域連携モデルの確立 ①歴史的インフラの <u>四季折々の美しさの見せ方</u> を検討する。 ② <u>周辺の温泉、名勝、遺産を結ぶストーリー</u> を検討する。 ③復興庁「新しい東北」事業等、東北観光推進との連携を図る。
事業の柱	①鳴子ダム見学プログラムの深度化(季節ごとのプログラムを設定) ②鳴子ダム(選奨土木遺産)と大崎耕土(世界農業遺産)との連携、温泉や食との連携 ③ファムツアーの実施
プロジェクト 目標	①鳴子温泉郷など鳴子ダム周辺地域における <u>宿泊者数の増加</u> ②季節ごとの見学プログラム企画による <u>鳴子ダム観光の通年化</u>

2. 各モデル地区の進捗報告 -鳴子ダム④-

◆ツアー設定(案)

見学プログラムの通年化	① すだれ放流の通年実施	・5月に実施してきたすだれ放流を通年の観光資源として活用する方策(実施の可否、回数等)を検討。
	② 夏・秋・冬に実施する魅力的な見学プログラムの設定	・ダム本体の見学プログラムと立地する周辺の自然環境(紅葉・雪等)を組み合わせ、季節ならではの見学プログラムを検討。
	③ 鳴子ダムの歴史的な意義を知るプログラムの設定	・選奨土木遺産に認定されている理由や技術的な特徴を、一般にもわかりやすく・面白く発信する知的好奇心を刺激するツアーを検討。
周辺地域の観光資源との連携	① 鳴子温泉郷の宿泊プランと鳴子ダム見学をパッケージした特別プログラム	・自治体観光部署や温泉協会と連携し、ダム見学を目的とした宿泊プランを造成。普段立ち入れない施設の案内や夜間・早朝の特別公開等プレミアム企画を想定。
	② ライトアップと組み合わせたイベントの実施	・ライトアップと組み合わせたナイトタイム観光の検討。音楽演奏や伝統芸能との連携を検討。
	③ 鳴子発電所の見学と組み合わせたダムの利水見学ツアー	・東北電力鳴子発電所との連携による、新たなプログラムの検討。
	④ 北上川水系上流のダムから河口(石巻)をつなぐプログラム	・上流のダム・温泉、中流の大崎耕土の農業(米・日本酒)、河口の石巻の海産物を組み合わせた周遊プランを検討。

2. 各モデル地区の進捗報告 - 鳴子ダム⑤ -

○第1回協議会意見要旨

- 鳴子は紅葉の時期は観光客が多いが、紅葉終了～冬までの間と、雪解け～春までの間の魅力の発信が課題。
- 周辺には、農業遺産の大崎耕土や多数の泉質を有する温泉、鳴子ダムの水を活用した有備館、お米、お酒といった資源があるが見せ方や商品化が課題。
- 現状、案内できるガイドが少なく、常時案内に対応できない。
- インフラツアーは特別感がある場合、集客力が高く、夜のイベントは宿泊にも繋がる。鳴子ダムは、ダム直下までの溪流沿いウォーキングや夜間のライトアップ、ダム直下での演奏会等、特別感が出せることが強み。
- インバウンドは国籍によって興味のあるものが異なる。アジア系はインスタ映えを重視しており、鳴子にはインスタ映えする景観も多い。一方で、欧米系はそのものの由来や歴史に興味を示している。



○事業実施方針(案)、ファムツアーへの反映点

- 本事業では、鳴子ダム、周辺の観光資源を通年でどのように見せるかを検討
- ツアーは「水」をテーマに、鳴子ダムとの関連性が高い要素を多く組み込み、ファムツアーでは各要素に対する評価や改善点を確認する。

2. 各モデル地区の進捗報告 -鳴子ダム⑥-

◆ ファームツアーの実施

○実施日時: 令和元年11月25日(月)～11月26日(火) 1泊2日

○参加者: インバウンド旅行関係者5名

- ・旅行ライター(オーストラリア)
- ・観光アドバイザー(ニュージーランド、カナダ)
- ・旅行サイトスタッフ(フランス)
- ・旅行サイトライター(カナダ)

○ ツアー行程

11月25日(月)

JR東京駅→(新幹線)→仙台駅→旧有備館→森民酒造→鳴子温泉たかはし亭(昼食)
→鬼首間欠泉→地獄谷→湯沼→鳴子温泉(泊)

11月26日(火)

鳴子温泉→鳴子ダム(内部見学・試験放流・ダム直下から見学)→尿前の関大家(昼食)
→地元関係者と意見交換会→あ・ら・伊達な道の駅→仙台駅→(新幹線)→JR東京駅



地獄谷見学の様子



鳴子ダム(天端)見学の様子



意見交換会の様子

2. 各モデル地区の進捗報告 -鳴子ダム⑦-

○ファムツアー意見交換会およびアンケート結果要旨

<評価点>

インフラ施設見学

- ・ 災害リスクが高い国ならではの建設の歴史や災害対応、震災時ダム対応の話は興味を引く

地域観光資源との連携

- ・ 有備館や森民酒造の母屋・家具など日本の歴史文化は外国人の興味を引く
- ・ 地元のお年寄りの話など地域の人との交流は魅力的

<課題・改善点>

インフラ施設見学

- ・ インクラインは良い観光コンテンツだが、乗車定員が少ない
- ・ プロジェクションマッピングやコンサート等、夜の観光として活用できれば宿泊増に寄与する

地域観光資源との連携

- ・ ダム周辺にBBQやハイキングコースなどのアクティビティがあると良い

受入体制整備

- ・ ガイドはネイティブの方がよいため留学生の活用も検討すべき

情報発信

- ・ 施設の説明などはQRコードの活用による多言語案内が良い
- ・ 英語のプロモーション動画があると良い
- ・ WebやSNSによる情報発信が必要

2. 各モデル地区の進捗報告 -鳴子ダム⑧-

第2回現地協議会では、第1回現地協議会、ファムツアーの結果を踏まえ整理した課題について、今後、いつまでにどこが主体となって対応していくかを検討する。

○今後の検討項目

- ① ターゲットの設定と、ターゲットの興味に即した観光資源(自然環境・アクティビティ・歴史・文化)の選定
- ② すだれ放流以外の季節における、「水」をテーマとした地域の観光資源とダムを結ぶストーリーの検討
- ③ 災害対応にポイントを置いた、ガイドシナリオ・見学コース・内容の検討
- ④ プロジェクションマッピングやコンサート等、夜の見学プログラムの検討
- ⑤ 東北電力鳴子発電所との連携、及び北上川水系流域地域との広域連携の検討
- ⑥ ガイド育成・多言語対応・情報発信等、受け入れ体制の整備

2. 各モデル地区の進捗報告 -天ヶ瀬ダム①-

<インフラ周辺の観光資源>

▼ 萬福寺


▼ 宇治上神社


▼ 炭山陶芸村


▼ 和夢茶カフェ


▼ 宇治茶道場「匠の館」


▼ 天ヶ瀬ダム


▼ 平等院


▼ 宇治茶老舗・堀井七茗園


▼ けいはんな記念公園


▼ 宇治川の鵜飼い


▼ 天ヶ瀬吊り橋


▼ 和東町・石寺の茶畑景観


▼ 高山ダム


2. 各モデル地区の進捗報告 -天ヶ瀬ダム②-

◆ 現地協議会

< 構成員 >

既存組織：天ヶ瀬ダムを観光資源に含めた宇治市地域の観光発展検討会

宇治市、宇治商工会議所、宇治市観光協会、京阪ホールディングス(株)、
(一社)お茶の京都DMO、京都府、近畿地方整備局、琵琶湖河川事務所、
淀川ダム統合管理事務所

その他連携団体：京都京阪バス(株)、宇治観光ボランティアガイドクラブ、(独)水資源機構、
関西電力(株)

< 第1回協議会 >

○日 時：令和元年11月8日 15:00～17:00

○場 所：宇治市役所

○議 事：(1)協議会の現在までの取組
(2)本年度の事業概要について
①事業実施方針(案)について
②ファムツアー実施について
(3)今後のスケジュールについて



2. 各モデル地区の進捗報告 -天ヶ瀬ダム③-

◆ 事業実施方針(案)

プロジェクト タイトル	「もうひとつの京都」情報拡大 【天ヶ瀬ダムをコアにした「お茶の京都」魅力発信プロジェクト】
プロジェクト 概要	広域連携モデルの確立 ①同水系支流ダム等、 <u>インフラの連携</u> を検討 ②有名観光地からの <u>外国人観光客の誘致</u> を検討
事業の柱	①天ヶ瀬ダムインフラツーリズムの多角化(隣接ダムとの連携) ②周辺(京都府南部と隣接地域)地区の世界遺産等観光資源との広域連携 ③ファムツアーの実施
プロジェクト 目標	①京都市内から <u>宇治市に呼び込む観光客数の増加</u> ②宇治市内における観光客の <u>滞在時間および宿泊者数の増加</u>

2. 各モデル地区の進捗報告 -天ヶ瀬ダム④-

◆ツアー設定(案)

インフラ施設

- | | |
|------------------------------------|---|
| ① 天ヶ瀬ダム見学ツアーの魅力向上 | • キャットウォークからの見学と他のダムで集客の目玉となっている観光放流を組み合わせた、一般にもわかりやすい見学プログラムの定例化を検討。 |
| ② 同水系支流ダム見学と組み合わせたダム満喫ツアー | • 高山ダム、比奈地ダム等と組み合わせて、ダムの形式・立地条件・役割の違いについて楽しく学ぶ、ダム好き満足ツアーを検討。 |
| ③ 天ヶ瀬発電所・宇治発電所の見学と組み合わせたダムの利水見学ツアー | • 通常見学を受け入れていない関西電力の発電所との連携による、新たな産業観光プログラムの検討。 |

周辺地域の観光資源との連携

- | | |
|--|---|
| ① 宇治市内および地域内宿泊プランと天ヶ瀬ダム見学をパッケージした特別プログラム | • お茶の京都DMOを主体に自治体観光部署と連携し、ダム見学を目的とした宿泊プランを造成。普段立ち入れない施設の案内や夜間ライトアップ等プレミアム企画を想定。 |
| ② 地域の観光資源(世界遺産・日本遺産)と連携した「もう一つの京都」ツアー検討。 | • 南山城地域の世界遺産(平等院・宇治上神社)、日本遺産(茶畑の景観、日本茶体験)等の観光資源と天ヶ瀬ダムを結ぶガイドツアーの設定と国内外への情報発信を検討。 |
| ③ 宇治川を活用したEボート(大型カヌー)の特別運行 | • 現在民間組織にて実施されているEボートを利用した川下りとダム見学ツアーの、さらなる充実を検討。 |

2. 各モデル地区の進捗報告 -天ヶ瀬ダム⑤-

○第1回協議会意見要旨

- ボランティアガイドによる見学ツアーやバスツアーを実施したが、最少催行人員の不足や台風等の天候不良により中止となることがあった。
- 観光協会主催のダム見学ツアーをDMOが販売する体制があるが、ダムへのアクセスや駐車場が整備中のため、個人向けツアーの販売ができていない。
- 宇治市の売りは「お茶」であり、寺社との組み合わせで地域を説明できるストーリーが作れるか検討が必要。
- 宇治市の観光振興アクションプランにおいて、「お茶と宇治のまち歴史公園」整備事業等の取組を実施している。
- 京都府南部や隣接地域との広域連携の検討にあたっては、より多様な組織との連携が必要。DMOは12市町村の周辺観光とダムの観光資源化を行っている。



○事業実施方針(案)、ファムツアーへの反映点

- 本事業では、ダム観光単体ではなく、これまでの宇治市の取組との連携を検討
- ツアーは「ダム」「お茶」「寺社」をテーマに多角的に京都との関連を見せ、ファムツアーではダムと各要素との連携に対する評価や改善点を確認する。

2. 各モデル地区の進捗報告 -天ヶ瀬ダム⑥-

◆ ファムツアーの実施

○実施日時: 令和元年11月28日(木)～11月29日(金) 1泊2日

○参加者: インバウンド旅行関係者5名

- ・旅行会社社員(フランス)
- ・旅行ライター(スウェーデン)
- ・フォトグラファー(アメリカ)
- ・旅行サイトライター(イギリス・カナダ)

○ ツアー行程

11月28日(木)

JR大阪駅→(専用車)→炭山陶芸村(陶房体験)→萬福寺(普茶料理の昼食・境内参観)
→匠の館(抹茶・玉露体験)→和東町・石寺の茶畑景観→宇治茶老舗・堀井七茗園
→亀石楼(泊)※平等院特別拝観(ライトアップ)

11月29日(金)

亀石楼→天ヶ瀬ダム(キャットウォーク特別見学)→和夢茶カフェ(昼食)→宇治市役所
※地元関係者と意見交換会→けいはんな記念公園(枯山水体験)→JR大阪駅



萬福寺見学の様子



天ヶ瀬ダム(放流)見学の様子



意見交換会の様子

2. 各モデル地区の進捗報告 -天ヶ瀬ダム⑦-

○ファムツアー意見交換会およびアンケート結果要旨

<評価点>

インフラ施設見学

- キャットウォークの歩行はエキサイティング
- ダムと自然の調和が素晴らしい

地域観光資源との連携

- 陶芸村体験はインバウンドの興味を引く

受入体制整備

- お坊さんのガイドは特別感があり、内容も面白い
- 普茶料理はベジタリアンやヴィーガンにも向いている
- 匠の館の英語の説明はわかりやすい
- お茶の体験もテーブルで飲めるのは気軽に参加できる

<課題・改善点>

インフラ施設見学

- 天ヶ瀬ダムが宇治の生活やお茶を支えているストーリーが説明できると良い
- 旧志津川発電所をカフェ等に活用すると良い観光になる

地域観光資源との連携

- 茶畑は景観は良いが電線が邪魔、市内からも距離があり、途中に立ち寄り場所があると良い。
- ダム見学だけでなくSUPやジップラインなどのアクティビティがあると良い。

受入体制整備

- 英語・中国語の説明が無い、不足している施設もあった
- ダム湖を望む通路は下が格子状で怖い、手すりがさびびいて不安がある。

情報発信

- 京都と比べてPR不足。
- 日本に関する旅行情報サイトに宇治の情報が無い、サイト運営者に対して宇治をアピールすべき。

2. 各モデル地区の進捗報告 -天ヶ瀬ダム⑧-

第2回現地協議会では、第1回現地協議会、ファムツアーの結果を踏まえ整理した課題について、今後、いつまでにどこが主体となって対応していくかを検討する。

○今後の検討項目

- ① かわまちづくりの公園整備によるアクセス・駐車場の整備計画に合わせた個人向け見学ツアーの設定・販売の検討
- ② 公園整備と合わせて計画されている旧志津川発電所の整備および活用の検討
- ③ 南山城12市町村の観光資源と連携の可能性を検討
- ④ インバウンド向けの観光資源の選定とダムを組み合わせたストーリーの策定
- ⑤ 各観光施設の多言語対応の推進と外国語ガイドの確保・育成の検討
- ⑥ 情報発信の強化にむけたWebサイトの改良と情報サイトへのプロモーションの検討

2. 各モデル地区の進捗報告 -来島海峡大橋①-

<インフラ周辺の観光資源>



▼サンライズ糸山



▼来島海峡展望館



▼来島海峡大橋



▼大山祇神社



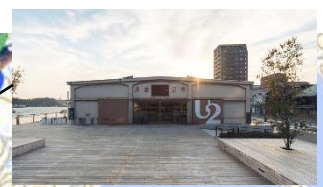
▼島ごころSETODA



▼千光寺公園



▼ONOMICHI U2



▼ようみいきいき館



▼村上三島記念館



▼因島水軍城



▼開山公園



▼今治城



▼能島水軍(海鮮BBQ)



▼タオル美術館



▼亀老山展望公園



▼村上水軍博物館



2. 各モデル地区の進捗報告 -来島海峡大橋②-

◆ 現地協議会

< 構成員 >

既存組織：環瀬戸内海地域交流促進協議会

四国経済連合会、中国経済連合会、兵庫県、岡山県、広島県、徳島県、香川県、愛媛県、高知県、四国運輸局、中国地方整備局、四国地方整備局、本州四国連絡高速道路(株)

その他連携団体：今治市、(一社)愛媛県観光物産協会、(公社)今治地方観光協会
(一社)尾道観光協会、(一社)しまなみジャパン、(株)しまなみ

< 第1回協議会 >

○日 時：令和元年11月1日 13:00～14:30

○場 所：今治市役所

○議 事：(1)インフラツーリズム魅力倍増プロジェクト概要について

(2)本年度の事業概要について

①事業実施方針(案)について

②ファムツアー実施について

(3)今後のスケジュールについて



2. 各モデル地区の進捗報告 -来島海峡大橋③-

◆ 事業実施方針(案)

プロジェクト タイトル	瀬戸内を観光のトップランナーへ 【しまなみ海道魅力拡大プロジェクト】
プロジェクト 概要	長大橋見学モデルの確立 ① 橋そのものの <u>見せ方・体験プログラム</u> の検討 ② 橋と周辺地域(島々)の <u>地理、歴史を結ぶストーリー</u> の検討 ③ 瀬戸大橋・明石海峡大橋を含む広域連携の検討
事業の柱	① 来島海峡大橋のインフラツーリズム(各種プログラム)の策定 ② 周辺(しまなみ海道沿線)地区を含む瀬戸内エリアの観光資源との連携 ③ ファムツアーの実施
プロジェクト 目標	① 塔頂エレベーターのキャパシティに見合った、 <u>少数限定、高単価</u> な見学ツアー の設定 ② しまなみ海道を四国への誘客の柱とし、 <u>地域の観光活性化とインフラをつなぐ</u> ストーリーを設定

2. 各モデル地区の進捗報告 -来島海峡大橋④-

◆ツアー設定(案)

塔頂体験の商品化	① 個人で随時予約できる定時出発ツアー	<ul style="list-style-type: none">・1日3回(10:00～、13:00～、15:00～)のツアーを設定、1回15名(5名×3交代)定員で設定。・自転車や定期船・バス等個人で利用できるアクセスに合わせて設定。
	② 日時を限定した少人数・高付加価値ツアー	<ul style="list-style-type: none">・日の出、日没、海面の霧等、特別な景観を塔頂から堪能するツアーを企画。人数を限定、ハイグレードな飲食等とセットして高価格・高付加価値を目指す。
	③ フォトウェディングなど貸切塔頂プラン	<ul style="list-style-type: none">・1組限定貸切にて、塔頂でのフォトウェディング、プロポーズ等の「個人のイベント」応援プランを企画。インバウンドへの対応も検討。
周辺地域の観光資源との連携	① 村上海賊と連携したツアー	<ul style="list-style-type: none">・しまなみ海道沿線の村上海賊関連スポット周遊と、塔頂から海賊の根拠地等を俯瞰。歴史講師や武将隊によるガイド、VRの活用を検討。
	② しまなみ海道サイクリスト向けスタンプラリー	<ul style="list-style-type: none">・しまなみ海道沿線および四国島内のスポットと塔頂体験を同時体験した旅行者に特典を提供。自転車による広域周遊を促進。
	③ 橋を立体的に眺めるツアー	<ul style="list-style-type: none">・観潮船で海上から見上げる橋や亀老山山頂からの遠望等、橋を外から立体的に眺める。渦潮・日没、夜景など「映える」時間帯に設定。
	④ 富裕層向け特別プラン	<ul style="list-style-type: none">・瀬戸内海のクルーズ船「ガンツウ」と連携、船上からの見学に解説者を派遣。乗船者限定の特別塔頂(日の出鑑賞の後、船上で橋を見上げながらシャンパンブレイクファスト等)の検討。

2. 各モデル地区の進捗報告 -来島海峡大橋⑤-

○第1回協議会意見要旨

- 塔頂体験の実施にはガイド、保安要員が必要であり、本四高速(株)だけでは十分な確保が難しい。
- 塔頂体験の場所となる馬島での観光資源や体験プログラムが未整備であり、塔頂体験と組み合わせたツアーが作れていない。
- 塔頂用のエレベーターは定員が少なく、団体ツアーの場合は組み分けと入れ替えが必要。見学の前後で他の観光資源や体験プログラムと組み合わせられれば団体ツアーも効率的に行える。
- 馬島へはしまなみ海道からサイクリングで自転車ごとエレベーターで上陸できるほか、今治からの定期船や大島からの観潮船等複数のアクセスがある。



○事業実施方針(案)、ファムツアーへの反映点

- 本事業では、地元や民間との連携によりどのようにガイド・保安要員を確保するかを検討
- ツアーは地元と幅広く連携を検討し、サイクリングや観潮船による馬島上陸を組み込み、ファムツアーでは、各アクセス手段に対する評価や改善点を確認する。

2. 各モデル地区の進捗報告 -来島海峡大橋⑥-

◆ ファムツアーの実施

○実施日時: 令和元年11月21日(木)～11月22日(金) 1泊2日

○参加者: インバウンド旅行関係者5名

- ・旅行ライター(アメリカ)
- ・観光アドバイザー(アメリカ・カナダ)
- ・旅行サイトライター(アメリカ2名)

○ツアー行程

11月21日(木)

JR新大阪駅→(新幹線)→福山駅→千光寺公園→ONOMICHI U2→生口島(島ごころ SETODA)→能島水軍(海鮮BBQの昼食)→村上水軍博物館→亀老山展望公園→タオル美術館→今治市内(泊)※今治焼鳥の夕食

11月22日(金)

今治→サンライズ糸山・来島海峡展望館→(サイクリング体験)→よしみいきいき館→(急流観潮船)→馬島(来島海峡大橋塔頂体験)→よしみいきいき館(昼食) ※昼食後、地元関係者と意見交換会→福山駅→(新幹線)→JR新大阪駅



サイクリング体験の様子



来島海峡大橋(塔頂)見学の様子



意見交換会の様子

2. 各モデル地区の進捗報告 -来島海峡大橋⑦-

○ファムツアー意見交換会およびアンケート結果要旨

<評価点>

インフラ施設見学

- 橋の塔頂は**特別感**がある。

地域観光資源との連携

- **地元の人**の**生活を見る**のは面白い。途中みかん農家に立ち寄ったがそういう体験を外国人は望んでいる。
- 歴史がある地域なので短時間ではなく**日単位でのツアー**ができると思う。

<課題・改善点>

インフラ施設見学

- 橋を架けた理由、建設工程、道具、建設や修理等、**橋の技術**について**説明**がほしい。
- 明石海峡大橋の例を参考にして**有償化を検討**すべき。

受入体制整備

- 食事は外国人の場合、**習慣・宗教上の配慮**が必要
- 橋の説明は専門性があり、わかりやすく説明できる**ネイティブのガイド**が必要。
- 観潮船には英語ガイドが必要。
- 電動アシスト自転車を手軽に使えるようにしてほしい。

情報発信

- そのツアーでの**体力的な条件等を発信**する必要がある。
- インスタグラム等を活用して情報を発信すると良い。

<第2回協議会>

○日 時: 令和2年1月14日 10:00~12:00

○場 所: 今治市役所

○議 事: (1) インフラツーリズム魅力倍増プロジェクトについて
(2) 有識者より現地調査を踏まえてのアドバイス
(3) 来島海峡大橋を地元の新たな観光名所とするための条件と新たな観光ルートの提案について
(4) 現状の課題整理と今後の対応策について
(5) 今後のスケジュール(案)



2. 各モデル地区の進捗報告 -来島海峡大橋⑨-

○第2回協議会意見要旨

- 塔頂体験と観潮船乗船を組み合わせた予約型のコース及び自転車で来島する個人型のツアーについて、運営を行う主体について認識を共有した。
- 1月中に現地で会議を開き、4月以降社会実験として塔頂ができるよう2月から調整を行う。
- 塔頂体験のオペレーションの人材として国、県、市で経験者の確保(候補者の抽出)について合意を得た。



○第1回・第2回現地協議会、ファムツアーの結果を踏まえ今後の検討項目を整理。

- ① 4月以降に社会実験として塔頂体験を行うことについて、週末の実施に関する検討
- ② 地元での運営体制について、関係団体における今後の合意形成に向けた更なる調整
- ③ 実際に塔頂体験時に案内する際のガイドシナリオの内容等に関する検討

2. 各モデル地区の進捗報告 -鶴田ダム②-

◆ 現地協議会

< 構成員 >

既存組織：川内川水系かわまちづくり観光振興部会

鹿児島県、宮崎県、薩摩川内市、さつま町、伊佐市、湧水町、えびの市、
川内川河川事務所、鶴田ダム管理所

その他連携団体：(株)薩摩川内市観光物産協会、NPO法人ひっ翔べ！奥さつま探検隊、
NPO法人バイオマスワークあったらし会、NPO法人水と地球

< 第1回協議会 >

○日 時：令和元年9月13日 15:00～17:00

○場 所：さつま町役場

○議 事：(1)協議会の設置について
(2)現在までの取り組み概要
(3)各地域からの報告
(4)今後のスケジュールについて



2. 各モデル地区の進捗報告 -鶴田ダム③-

◆ 事業実施方針(案)

プロジェクト タイトル	<u>新しい日本の観光提言</u> 【さつま観光未来プロジェクト】 －鶴田ダムのインフラツーリズムによる新しい鹿児島観光の活性化－
プロジェクト 概要	日本の地域観光における大きな課題は、新たな国際観光に対応できる素材が不足していることである。本プロジェクトは、政府が取り組む観光素材としての大胆なインフラの開放に即して、九州地整管内の <u>鶴田ダムを核とした新たなインフラツーリズムの可能性を、沿川3市2町の観光資源を地域とともに磨き上げながら、薩摩地方の観光交流活性化を促進し、提案するものである。</u>
事業の柱	① 鶴田ダムの <u>インフラツーリズムの深度化</u> ② 周辺(沿川)地区の <u>観光資源との連携</u> ③ ファムツアーの実施
プロジェクト 目標	① 地域における新たな観光資源として、鶴田ダムを日本一の <u>インフラツーリズムの拠点</u> とする ② 沿川3市2町の観光資源の磨き上げを支援し、 <u>鶴田ダムと観光資源との連携</u> を模索する ③ インバウンド対応の遅れている薩摩地方において、本プロジェクトにより、外国人目線で観光資源を評価し、地域にフィードバックすることで鶴田ダムと地域観光資源をインバウンド誘客の視点から深化させる

2. 各モデル地区の進捗報告 -鶴田ダム④-

◆ツアー設定(案)

団体

① 小中学生に向けた教育旅行(社会科見学、修学旅行等)	<ul style="list-style-type: none">・子供たちが自然災害、温暖化、洪水被害等に興味を持ち、インフラの大切さを認識する新たなプログラム。・災害時における家族や自身の取るべき避難行動についても鶴田ダムをフィールドに集中した防災学習を実践。・座学とダム体験から防災を学ぶ。・時間によってはペーパークラフト作成や鶴田ダム模型の体験。・ダムレンジャーによる操作室やゲート室での説明。
② 高齢者・障がい者に向けたバリアフリー見学ツアー	<ul style="list-style-type: none">・急で長い階段の昇降等、従前のツアー内容を見直し高齢者や障がい者にとって新しいインフラ観光、やさしいダム観光を提案。・手すりや昇降の緩和のためのハード面の整備。(将来)
③ 旅行会社とタイアップした鶴田ダムインフラツアーの受け入れ	<ul style="list-style-type: none">・旅行会社と連携するとともに、企画するツアー受け入れ体制の早期化、充実化。・防災を軸にした体験型ツアー。
④ ダムの建設、治水技術を学ぶテクニカルビジット(技術視察)	<ul style="list-style-type: none">・国内外の土木技術者に向けた、ダム再開発技術や治水技術等を近隣事務所とも連携しわかりやすく発信する専門性の高いツアーの企画。
⑤ ダムマニア満足ツアー	<ul style="list-style-type: none">・ダムマニアの要望に応える満足度の高いツアーの企画。
⑥ 焼酎貯蔵記念体験	<ul style="list-style-type: none">・地元の焼酎蔵元と連携し記念日まで鶴田ダム監査廊に焼酎を貯蔵する企画。

2. 各モデル地区の進捗報告 -鶴田ダム⑤-

◆ツアー設定(案)

個人

- | | |
|---|--|
| ① 近隣温泉施設(宮之城温泉、紫尾温泉等)の宿泊プランと鶴田ダム見学をパッケージした特別プログラム | <ul style="list-style-type: none">•自治体の観光部署や温泉協会と連携し、ダム見学を目的とした宿泊プランを造成。•普段は立ち入れない施設へ案内する等のプレミアム企画。 |
| ② 1名からでも受け入れ可能な満足度の高い個人客受け入れツアー | <ul style="list-style-type: none">•ダム見学者が利用しやすいように、60分コース、90分コースを設定したツアー企画。•ゆうゆう館での昼食をセット。 |
| ③ 鶴田ダム大鶴湖遊覧船の期間限定特別運行 | <ul style="list-style-type: none">•ダムから旧曾木発電所遺構まで船を利用することによりダム見学と発電所遺構を一体の企画として実施。•NPOが所有する船を利用した遊覧ツアーの検討。•接岸施設整備等により運航の拡大を検討。 |
| ④ 観光(点検)放流の実施 | <ul style="list-style-type: none">•今年度初めて11月に地域のイベントとも連携し点検放流を実施。•毎年11月を目途に鶴田ダムを通じた地域の風物詩として根付かせる鶴田ダムフェア(仮)を実施していく予定。 |
| ⑤ 水力発電施設の見学と組み合わせたダムの利水見学ツアー | <ul style="list-style-type: none">•Jパワー発電所とダム管理所の連携による、新たな見学ツアー。•Jパワー非売品グッズの提供等プレミアム企画。 |

2. 各モデル地区の進捗報告 -鶴田ダム⑥-

○第1回協議会意見要旨

- 川内川沿川3市2町の10組織で川内川ブランド確立による地域活性化をめざしているが、自治体間で取組に差がある。
- ダムと地域の資源をつなげるストーリーや、地域全体として交流人口を増やしていく取組が必要であり、土木広報に留まらない顧客価値の追加や周辺観光資源との連携が必要。
- この地域でしか出会えない食事、文化、しきたり等を観光資源としていく。
- 今年度初めて行う点検放流イベントを今後、秋の風物詩としてアピールしていきたい。
- 地元NPOが所有する船を活用して湖面から旧曾木発電所へ行くツアーを検討中であり、船着き場の整備に合わせて実現化したい。



○事業実施方針(案)、ファムツアーへの反映点

- 本事業では、ダムと地域の資源をつなげるストーリーを作り、顧客価値と周辺観光資源との連携を意識した商品企画を検討
- ツアーは旧曾木発電所遺構や点検放流をセットで企画し、ファムツアーでは各市町の観光資源に対する評価や改善点を確認する。

2. 各モデル地区の進捗報告 -鶴田ダム⑦-

◆ ファムツアーの実施

○実施日時: 令和元年11月9日(土)～11月10日(日) 1泊2日

○参加者: インバウンド旅行関係者7名

- ・旅行ライター(アメリカ・イギリス)
- ・観光アドバイザー(アメリカ・カナダ)
- ・フォトグラファー(アメリカ・フランス)
- ・旅行サイトライター(アメリカ)

○ツアー行程

11月9日(土)

JR博多駅→(新幹線)→鹿児島中央駅→桜島(桜島火山ガイドウォーク)→仙巖園(昼食)
→入来麓武家屋敷群(サムライツーリズム)→薩摩びーどろ工芸→紫尾温泉(泊)

11月10日(日)

紫尾温泉→鶴田ダム(内部見学と点検放流見学)→旧曾木発電所遺構→曾木の滝(昼食)
※昼食後、地元関係者と意見交換会→丸池湧水→JR肥薩線嘉例川駅(時間の都合にて
えびのエコミュージアムセンターから変更)→鹿児島中央駅→(新幹線)→JR博多駅



サムライツーリズムの様子



鶴田ダム(点検放流)見学の様子



意見交換会の様子

2. 各モデル地区の進捗報告 -鶴田ダム⑧-

○ファームツアー意見交換会およびアンケート結果要旨

<評価点>

インフラ施設見学

- **ダム内部の見学**は貴重な体験で面白かった。
- ダム管理所で用意した英文資料はわかりやすかった。
- ダム放流イベントと併せて行われた**マルシェ**は楽しめた。

地域観光資源との連携

- 武家屋敷群でのサムライツアーは**子供たちとの交流**や本物の居合道も見学できて良かった。
- 薩摩切子は美術工芸として素晴らしい。

<課題・改善点>

インフラ施設見学

- 見学ルートに模型や看板等設置し、**仕組みがわかる解説**が欲しい。また**英文パンフレット**があると良い、事前に手にできれば更に良かった。
- 操作室のレクチャーは資料と同内容ではなく、**質疑等、双方向のコミュニケーション**が理想。
- **ダムが地域の生活へ与えた影響**について知りたい。

地域観光資源との連携

- 各種の**アクティビティと組み合わせた幅広いプラン**があり、興味や所要時間で選べると良い。
- 日本の魅力は文化や技術の新旧のコントラストであり、その点を意識したプログラム作りをすると良い。

受入体制整備

- スマホの**音声ガイド**や**多言語ガイド**がいると良い。

情報発信

- SNSを活用して積極的にPRすべきである。
- トリップアドバイザー等旅行情報サイトを活用すべきである⁴²
- **地域一帯を一つにまとめたパンフレット**があると良い。

2. 各モデル地区の進捗報告 -鶴田ダム⑨-

第2回現地協議会では、ファムツアーの結果も踏まえ整理した課題について、今後、いつまでにどこが主体となって対応していくかを検討する。

○第1回現地協議会、ファムツアーの結果を踏まえ今後の検討項目を整理。

- ① 防災、治水をテーマとした定時出発ツアー設定に向けた見学ルート、ガイドシナリオの検討
- ② 点検放流を季節イベントとして定着、拡充させるための企画のブラッシュアップ
- ③ NPOが所有する船を活用した旧曾木発電所遺構見学ツアーの検討
- ④ 地元温泉宿泊者を対象とした特別企画の検討
- ⑤ Jパワー発電所との連携によるツアー設定の検討
- ⑥ サムライツーリズムや地域NPOの既存メニューとの連携の検討
- ⑦ 現地ガイド組織との連携による観光用ストーリーの策定、こどもガイド等地域の教育との連携検討
- ⑧ 各自治体がアピールしたいもの、観光素材の明確化と売り方の検討

2. 各モデル地区の進捗報告 -ハツ場ダム①-

<インフラ周辺の観光資源>

▼草津温泉


▼東吾妻町自転車型トロッコ


▼道の駅あがつま峡


▼ハツ場ダム


▼吾妻渓谷


▼不動大橋


▼川原湯温泉


▼浅間酒造観光センター


▼浅間山北麓ジオパーク


▼道の駅ハツ場ふるさと館


▼不動の滝


▼北軽井沢


▼白糸の滝


▼鬼押出園


▼軽井沢


▼道の駅


2. 各モデル地区の進捗報告 -ハツ場ダム②-

- 令和元年9月にやんばツアーズによるツアー実施が終了。10月以降、地元主体でのツアー実施へ移行。
- 地元主体での自走に向け、現地においてアンケートやファムツアーを実施。

◆ 地域自治体・事業者を対象としたヒアリング

実施日：令和元年11月12日（火）～12月11日（水）

対象：長野原町、東吾妻町、草津町、長野原観光協会、川原湯温泉協会、北軽井沢観光協会、東吾妻観光協会、草津観光協会、軽井沢観光協会、長野原商工会、東吾妻商工会、道の駅やんば、浅間酒造、道の駅あがつま、JTB旅館ホテル連盟インバウンド部会、浅白観光自動車

<ヒアリングで抽出した課題>

- ・地域側の各組織における観光客受け入れに対する意識の差
- ・外国人対応者の確保のための財源の確保
- ・Wi-Fi、キャッシュレス対応等のハード面の整備に関する施設間格差

2. 各モデル地区の進捗報告 -ハッ場ダム③-

◆ 訪日外国人を対象としたアンケート調査

実施日: 令和元年11月28日(木)

対象: 旧軽井沢銀座商店街。草津湯畑付近にて対面式アンケートを実施(有効回答数: 92)

<アンケート集計結果概要>

- 出身地: 台湾30名、香港21名、アメリカ12名が上位3か国、タイ等東南アジアは4か国計15名、アメリカ含む欧米は4か国計16名
- ハッ場ダムについては9割(83名)が「知らない」と回答、また「ぜひ行きたい」「行きたい」を合わせても3割(30名)に留まっている(「何をするとところかわからない」などの意見あり)
- 温泉施設以外につき、「ぜひ行きたい」「行きたい」を合わせて最も多いコンテンツは、台湾は「やんば見放題」(20名)、東南アジアは「水陸両用バス」(13名)、欧米は「やんば見放題」「浅間園・鬼押し出し園」「ダム見学会」(各8名)と傾向が分かれた

<アンケート調査課題>

- ハッ場ダムについて知らない、分からないとの回答が多く、認知度・情報不足が明確
- 国によって魅力を感じるコンテンツにばらつきがあり、ターゲット国に合った戦略が必要

2. 各モデル地区の進捗報告 -ハツ場ダム④-

◆ ファムツアーの実施予定

○実施日時: 令和2年1月30日(木)~1月31日(金) 1泊2日

○参加者: インバウンド旅行関係者5名

- ・旅行サイトスタッフ(台湾2名、タイ)
- ・観光アドバイザー(日本)
- ・旅行会社社員(日本)

○ツアー行程

1月30日(木)

JR上野駅→(特急)→長野原草津口駅→道の駅あがつま峡(昼食)→廃線自転車型トロッコ体験→浅間酒造観光センター→ハツ場ダム見学→川原湯温泉(泊)

1月31日(金)

川原湯温泉→道の駅ハツ場ふるさと館→草津温泉周辺見学→北軽井沢地区周辺(昼食)→軽井沢銀座→軽井沢駅→(新幹線)→JR上野駅

- ・ ツアーは「草津温泉」をキーワードに、東吾妻町、長野原町、草津町の観光施設を効率よく見てもらえるよう企画し、ファミツアーでは温泉+ダム周辺アクティビティというパッケージの有効性を確認する。

3.今年度成果とりまとめの方向性

3. 今年度成果とりまとめの方向性

◆事業成果取りまとめ方針(案)

- 各地域での①～④の検討項目についての検討状況、検討結果を次年度以降の事業実施の方針として取りまとめる。
- 今後インフラツーリズムの取組を検討している地区への展開を念頭において取りまとめる。

検討①: インフラ施設見学の深度化

★どのようにして顧客価値を向上させるかについて整理する。

- 既存の見学プログラムの実施状況、参加者の評価、問題点、課題の整理
- 施設固有の魅力・価値の洗い出し、見学者目線での「面白さ」の検討
- 見学ルート of 検討、ガイドシナリオ・マニュアル作成
- 定時出発の見学ツアーを想定したガイドの確保・育成
- 見学ツアーの収益事業化の可能性検討(原価計算(人件費、保険)等)
- 見学ツアー実施の民間等への委託の可能性検討

検討②: 地域の観光資源と連携したコンテンツ検討

★ターゲット層の設定、地域の魅力を発信するストーリー組み立てについて整理する。

- 都道府県や市町村等の観光振興計画を踏まえた国内・海外の誘客ターゲット層の設定
- 周辺地域の観光資源の洗い出し(自然景観、歴史、伝統文化、生活文化、アクティビティ等)
- 地域の観光資源とインフラ施設を関連付けたストーリーの策定
- 半日～1日の観光プログラムとしての商品化の検討
- ファムツアー等による検証とブラッシュアップの方針

3. 今年度成果とりまとめの方向性

検討③: インフラツーリズムの運営体制構築

★地域での自立的なツアー実施のための体制構築について整理する。

- ツアーの運営主体を中心としたワーキンググループの立ち上げを検討
- 協議会および地元自治体との役割分担を検討
- 運営主体となり得る組織の候補、協議会メンバーの中でDMO・旅行業登録の有無を確認
- 着地型旅行商品の造成・販売に関する機能・仕組みの有無を確認
- 協議会から運営主体となる事業者に対する公募、選定、業務委託を実施


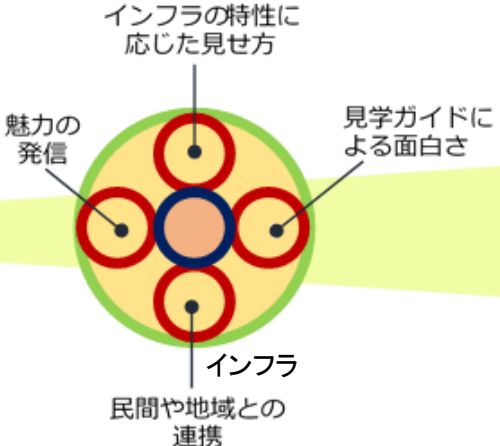
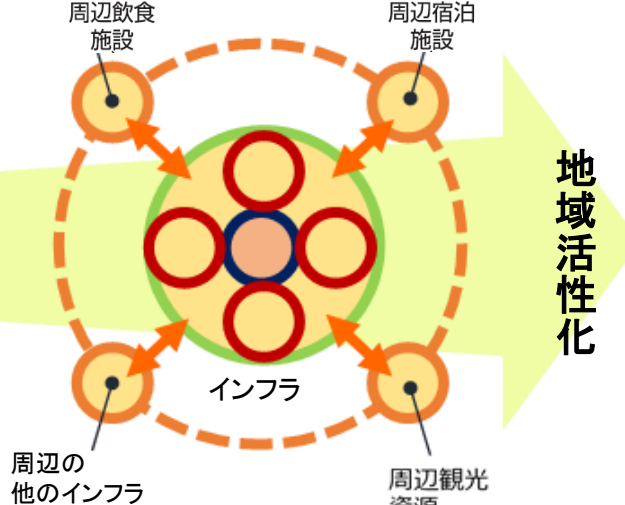
検討④ インフラツーリズムの実践

★販売手法やプロモーションのあり方について整理する。

- 商品販売手法の検討(自社サイト等による販売、外部ポータルサイトへの掲載、旅行会社への素材提供等)
- Webサイト、SNS、雑誌メディア等を活用した国内外への情報発信の調査・検討・実施
- 都道府県や市町村の観光プロモーションと連動した活動の実施(海外旅行博・商談会への出展・参加等)

3. 今年度成果とりまとめの方向性

「インフラツーリズム拡大の手引き－試行版－」の「インフラツーリズム拡大のステップ」と検討項目①～④の関連を以下のとおり整理。

土木広報 ～インフラツーリズムの基礎～	土木広報＋付加価値 ～魅力ある観光資源へ～	(土木広報＋付加価値) × 周辺観光資源 ～地域と連携した観光地域づくり～
 <p>土木施設の役割や必要性を学ぶ見学 インフラ</p>	 <p>インフラの特性に応じた見せ方 魅力の発信 見学ガイドによる面白さ インフラ 民間や地域との連携</p>	 <p>周辺飲食施設 周辺宿泊施設 インフラ 周辺の他のインフラ 周辺観光資源 地域活性化</p>
土木広報としてインフラの見学会を実施している段階	インフラの見学会を磨き上げ、より広範囲から人を呼び込む段階	インフラと地域との連携により、周辺観光資源等にも立ち寄り、より一層地域活性化が図れる段階
施設管理者が実施主体		地域と連携した組織・民間事業者等が実施主体
検討①：深度化		検討②：地域連携
検討③：運営体制構築		
検討④：実践		

3. 今年度成果とりまとめの方向性

◆自走化に向けた検討

インフラツーリズム事業の自走化に向けての段階ごとの検討、実施項目を「インフラツーリズム拡大の手引きー試行版ー」の「勘所」を踏まえて整理。

ステップ1

○施設の見せ方

- ・施設の魅力的なツアー、ガイドシナリオの検討

○地域との連携

- ・地域観光資源の洗い出し、改善点の検討

○持続性の確保

- ・地域の事業方針、目標の策定、運営体制検討

○魅力発信

- ・発信情報の収集・整理、発信手法・ツールの検討

ステップ2

○インバウンドへの展開

- ・説明資料、ガイド等の多言語対応

○持続性の確保

- ・運営主体の選定(民間、DMO等)
- ・販売手法、販路の検討

○対応要員確保

- ・民間事業者等と連携し、土日のガイド確保

○受入環境の確保

- ・駐車場・トイレの整備
- ・インフラ施設の安全対策

○魅力発信

- ・Web、SNSによる発信
- ・魅力的な広報資料

ステップ3

○地域との連携

- ・ターゲット別の幅広い地域の観光資源と連携した商品の販売、実施

○インバウンドへの展開

- ・Wi-fi、言語、食事、宿泊施設等、受入整備

○魅力発信

- ・メディアへの取材依頼
- ・民間や自治体と連携した情報発信

ステップ4

収益事業として自走